

独立行政法人国際交流基金 契約監視委員会（平成26年度第2回）

議 事 要 旨

- 1 日時：平成26年12月25日（木）14：00-16：30
- 2 場所：独立行政法人国際交流基金第2セミナー室（9階）
- 3 出席者：
 - （1）委員
渡邊一弘委員長、舟田正之委員、宮本和之委員、渡辺政宏委員
 - （2）外務省
広報文化外交戦略課 堀江外務事務官
 - （3）国際交流基金
安藤理事長、田口理事、沖部上級審議役、小野総務部長、古屋経理部長、吉田監査室長、平林会計課長、審議案件担当者
- 4 主要議事：
 - （1）平成26年度再委託案件・一者応札・応募案件について（報告）
 - （2）個別案件の審議（平成26年度6月～10月締結分・審議）
 - （3）その他
- 5 主要議事概要：
 - （1）**平成26年度再委託案件・一者応札・応募案件について（報告）**
今回委員会の点検対象となる契約のうち、再委託案件及び一者応札・応募案件について事務局より報告。委員からの質問は特に無し。
 - （2）**個別案件の審議（案件一覧は別紙の通り）**
 - ア 「平成25年度会計監査人契約（平成26年度分）」
委員：同じ人員体制で4年間の契約となっている。業務に精通してくれば、業務の合理化・効率化による経費削減が期待できると思うが、契約内容を見直し、交渉していく余地はあるか。
基金：今後の契約期間中に独法の会計基準の変更が予定されていることもあり、右肩下がりコスト削減を期待するのは難しい。
委員：入札を毎年行って監査体制が変われば、その都度、説明の手間が生じ、業務の合理化・効率化を図り難い面がある。

委員：応札した他社から「赤字落札ではないか。」との疑義が出されなかったか。

基金：そのようなことはなかった。

イ 「財務会計システムバージョンアップ及び一部改修契約」

委員：予定価格の作り方に問題はなかったか。

基金：専門コンサルタントを入れて作成したが、業者の単価設定の方が安かった。

委員：ソフトウェア分野は専門家以外には分かりづらい面はあるが、仕様書の記載や単価設定について更に検討し、今後の反省材料とすることを期待する。

基金：了解した。

ウ 「国際交流基金アジアセンター・コミュニケーション戦略策定のための調査業務委託契約（インドネシア・タイ分）」

委員：本件、入札ではなく企画競争であるが、評価と価格のバランスはどうであったか。例えば複数者が同水準の提案内容と価格であった場合、何をもって優劣を付けるべきと考えたか。

基金：評価の方に、より重点を置いた。

委員：公示開始から提案書の提出締め切りまでの期間が短い印象がある。

基金：調査の分析結果を得たい時期から工程を逆算して入札関連の日程を設定した。インドネシア・タイでマーケットリサーチの実績ある会社との条件を付したので、その種の調査実施に習熟している業者であれば対応可能と判断した。

委員：公示期間の短さが応札者の数を制限した可能性が否定できず、改善の余地がある。また、業務完了後にも同じ評価者によるレビューがあると良いだろう。

エ 「仮想化基盤運用設計業務委託契約」

基金：予定価格の事後公表に関し、中央省庁等の入札案件で「今後の契約の予定価格を類推させるおそれがあるものについては掲載しておりません。」との注記が付された例を少なからず見かける。今後、本件と同種の調達契約に関し、予定価格の事後公表をしないという選択が可能なのかご意見を伺いたい。

委員：難しい問題。事後公表については、応札者が多い状況下では然程問題ないと思われるが、応札者が少なければ少ないほど、予定価格近辺に入札価格が張り付く事態が起きないとも言えない。

オ 「北米地域との青少年交流」米国短期派遣（第6及び第7スロット）に係る国内・国際航空券手配及び国内外接遇業務委託契約」

委員：本件のように発券数が200名単位もある場合には、スケールメリットにより旅行代理店が航空社会に対して価格交渉力を持って、特別なディスカウントが得られることがあると類推する。

委員： そうであれば、それを見越して予定価格を下げることも出来るのではないか。

基金：航空券の価格は予約・購入時期や燃油サーチャージなどの変動要素が多い。過去においては、低落札の反対に入札不調となるケースもあった。様々な要因によって国際航空券価格が流動的に変化することを考慮する必要がある。

委員：事情を理解した。

カ 「日本語パートナーズ派遣事業」にかかる海外旅行保険契約」

委員：定型的な保険契約であるのに、二者応札となった理由は何か。もっと多くて良いはずだが。

基金：基金が在外共済会事業を通じて派遣専門家に付保している海外旅行保険の内容に準拠して、治療・救援費用保険金の上限額を5千万円としたことが、応札者数を制限する要因になった可能性がある。

委員：治療・救援費用保険金の上限額をそれより下げれば、より多くの応札者がいた筈とは言い切れ無いが、気になる点ではある。5千万円の設定経緯を確認し、次回委員会で報告して欲しい。

基金：了解した。

キ 「サッカーフィリピンU-22代表チーム招へい」共催契約」

委員：日本サッカー協会との共催契約の内容について、国際航空券の手配・購入については、同契約から切り離して、日本の旅行代理店に発注したほうがより安く調達できるのではないか。

基金：招へいにかかる国際航空券は海外で購入した方が安い場合が多い。本件では協会が招へい国のカウンターパートを通じて現地発券・購入している。

委員：今後も同種の招へい事業が続くのであれば、日本あるいは現地のどちらで購入する方が安く済むのか試算してみてもどうか。

委員：本件の場合、現地発券なのにさほど安いとは思えないが。

基金：三ヶ月前に予約・発券ができればもっと安くなるだろうが、国によっては日程が固まるのが来日の直前になり、安価な航空券の購入機会を逃すことがある。

委員：事業の広報はどのように行っているのか。

基金：基金も努力しているが、専門の分野においてはスポーツ新聞等の幅広いネットワークを持つサッカー協会には敵わない。協会はこの事業を基金アジアセンター事業としてしっかり広報してくれている。

ク 「東京国際映画祭をプラットフォームとしたアジア映画交流事業」共催契約」

委員：配給の売買契約が成立することがあるのか。

基金：東京国際映画祭には見本市の機能も兼ねている部分があることは確かだが、現状はアジアから良い作品を多数集めること自体が難しい段階なので、長期的な取り組みが必要。今回招へいした東南アジア作品のうちからは、一作品における商業配給が決まり、非常に喜んでいる。

委員：共催合意書は単年度の締結だが、相手方と長期的な視野に立った協働の合意のようなものがあるのか。

基金：覚書を結んでいる。

委員：チケット収入は基金に入るのか。

基金：然り。契約相手方と分配する。基金が一部なりとも経費負担をして上映した東南アジア映画計 17 本について、チケット収入の一部が得られる。

(3) その他

ア 平成25年度決算検査報告説明

事務局より、平成26年12月に会計検査院で行われた平成25年度決算検査報告説明会で配布された資料に沿って報告。

イ 給与計算業務委託契約

前回契約監視委員会の個別審議案件。その後の他法人の状況に関する調査結果を踏まえ、平成28年度からを目処に競争性のある契約への移行を検討することとした旨を報告。

以上

平成 26 年度第 2 回契約監視委員会 抽出案件一覧

No.	契約名称及び内容	契約の相手方	契約方法	契約金額
1	平成 25 年度会計監査人契約（平成 26 年度分）	あらた監査法人	総合評価	1,243,080 円
2	財務会計システムバージョンアップ及び一部改修契約	株式会社エヌデー	入札不調	34,020,000 円
3	国際交流基金アジアセンター・コミュニケーション戦略策定のための調査業務委託契約（インドネシア・タイ分）	株式会社イード	企画競争	9,855,000 円
4	仮想化基盤運用設計業務委託契約	株式会社アークシステム	一般競争	3,888,000 円
5	「北米地域との青少年交流」米国短期派遣（第 6 及び第 7 スロット）に係る国内・国際航空券手配及び国内外接遇業務委託契約	近畿日本ツーリスト株式会社	一般競争	102,904,895 円
6	“日本語パートナーズ派遣事業”にかかる海外旅行保険契約	日本興亜損害保険株式会社	一般競争	13,041,130 円
7	「サッカーフィリピン U-22 代表チーム招へい」共催契約	公益財団法人日本サッカー協会	随意契約	9,300,000 円
8	「東京国際映画祭をプラットフォームとしたアジア映画交流事業」共催契約	公益財団法人ユニジャパン	随意契約	83,110,000 円